

地域の“かけがえのない資料”を守るために—市民とともに進めるレスキューの取り組み

北村 美香

東日本大震災の発生から 10 年以上が過ぎました。当時、被災地で多くの文化財や資料が失われた現実直面し、「自分にも何かできるのではないか」という思いを抱いた人は少なくなかったと思います。私自身もその一人でした。

しかし、保存科学の専門知識があるわけでもなく、「素人が関わってよいのか」「専門家の妨げにならないか」という迷いも強く、なかなか一步を踏み出せずにいました。

そうした中、私たちはまず、自分たちが得意とする領域で支援できないかと考え、被災地域子どもたちに向けたワークショップを企画・実施している友人の活動に参加しました。地域の自然や歴史を題材とした体験を通じて、故郷を前向きに捉えるきっかけをつくりたいと考え、東北各地での出張型ワークショップを実施しました。

この活動の途中で、思いがけない機会が訪れました。岩手県遠野市での水害をきっかけに、水に浸かってしまった紙媒体のレスキューを市民と専門職員が共に学ぶ「水損資料レスキュー実技講習会」へ参加することになったのです。当日は、博物館関係者だけではなく、居酒屋の店主や教育委員会の行政職員など、職業も経験も異なる参加者が一緒に濡れた書籍を解体し、新聞紙を挟む作業を行いました（図 1）。スクウェルチパッキング法という基本的な乾燥処理を学ぶ中で、「自分にもできることが確かにある」と実感できたことは、大きな転機となりました。

この経験を基に、私たちは関西でも同様の講習会を開催する取り組みを始めました。2021 年から大阪府内を中心に、滋賀県、和歌山県、三重県、さらには大



図 1. スクウェルチパッキング法

学機関でも実施し、図書館職員や市民の方々に広く参加していただいています（図2）。講習会は専門知識を必要としない内容で、誰でも実践しやすい方法を共有しています。

また、「必要な時にすぐ役立つ情報」を目指して、濡れた資料の応急処置を一枚で紹介するリーフレットを作成しました。被災した際の初動のポイントや、適切な連絡先の順序などを、実際の被災地での経験に基づいて整理したものです。冷蔵庫に貼っていただけるよう、視認性を高めたデザインとし、どなたでも自由に活用できるよう公開しています。

私たちの活動の根底には、「資料のレスキューは専門家だけの領域ではない」という考えがあります。身の回りの本やアルバムが水濡れした場合にも、適切な知識があれば救えるものは多くあります。そのため、講習会を通じて、地域で暮らす方々が自分ごととして取り組めるよう、敷居を低くすることを心がけています。今後は、子どもたちにも資料保全の大切さを伝えられるよう、子ども向けプログラムの開発も進めています。小さな経験であっても、将来の災害時に役立つ力を育む一助になると考えています。

地域の文化財や資料は、その土地の歴史や人々の記憶を未来へつなぐ大切な財産です。専門性の有無にかかわらず、一人ひとりが「守る側」になれる場づくりを、これからも継続していきたいと考えています。もし「何かしたい！」と思うことがあれば、一度覗きにきてみてください。

2月13日には岸和田市で講習会を開催しました。希望する地域に出向くことも可能ですので、ご希望の団体などありましたらぜひ、お声かけください。

（きたむら みか 結 creation／京都芸術大学）



図2. 水損ネットワーク講習のようす

新アドバイザー就任あいさつ

山田 琉太郎



図1. 著者近影・篩採集による調査風景

2026年4月からきしわだ自然資料館のアドバイザーに就任いたしました、山田琉太郎（やまだりゅうたろう）と申します（図1）。現在は大阪公立大学農学部緑地環境科学科に所属し、クシケアリ属の遺伝的多様性を中心に研究しています。きしわだ自然資料館では、3階の収蔵庫にある昆虫標本の整理をはじめ、1階の生体展示の管理、昆虫を中心とした行事やチリメンモンスター実習のサポートを行っています。

昆虫標本の整理では、鱗翅目を中心とした標本台帳への記録や、分類群ごとの整理を行っていきたいと考えています。博物館には様々な形で標本が収蔵されます。種同定を行い、データラベルの質を向上させることで、研究の役に立つ標本となります。さらに、分類群ごとに整理することで、利用しやすい標本にしていけるよう努めます。

チリメンモンスター実習については、きしわだ自然友の会と共催のオンライン講座「お家でさがそう、チリメンモンスター！」という、Zoomを利用した実習を中心に活動しています（図2）。コロナ禍のデジタル化を発端とする講座ですが、大阪府を中心として全国から多く参加いただいております。きしわだ自然資料館を介して海の豊かさや生物多様性を体感していただければと思います。

研究以外では、南大阪の甲虫を中心に採集しています。堺市ではおよそ1000種の甲虫が記録されていますが、これまで記録のなかったものが多く見つかっています。そのため、堺市の甲虫相の解明へ向けて様々な採集方法を用いて調査を行っています。また、堺市だけでなく、泉州・河内地域を中心に甲虫の記録をつけています。分からない昆虫やおもしろい昆虫を見つけた際は、きしわだ自然資料館までぜひお持ちください。



図2. オンライン講座「お家でさがそう、チリメンモンスター」のようす

泉州地域は海浜から里山、山地と多くの生態系から構成されており、自然のおもしろさや生物多様性について一緒に学んでいきたいと考えています。岸和田市の皆様や来館者の方々に、楽しみながら泉州地域の自然について学習する場として利用いただけるよう、アドバイザーとして尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

(やまだ りゅうたろう きしわだ自然資料館アドバイザー)

Information

●令和8年度企画展

「響かせよう 豊かな海の ハーモニー ～大阪湾の海藻おしば～」

今年11月に岸和田市と泉佐野市で行われる第45回全国豊かな海づくり大会～魚庭の海おおさか大会～の機運醸成事業の一環として、大阪湾で採集された海藻で作成した、海藻おしば作品を展示します。6月28日には大阪湾の海藻を使った「海藻万華鏡づくり」も行います。

会 期：2026年6月6日(土)～6月28日(日)

時 間：10：00～17：00

6月28日の海藻万華鏡づくりは

10：30～12：00・13：00～16：00

(先着順・材料なくなり次第終了)

休館日：毎週月曜日

会 場：きしわだ自然資料館 1階ホール

料 金：企画展の見学のみは無料

海藻万華鏡づくりは500円(材料費)

協 力：海藻おしば協会ほか

問い合わせ：自然資料館(下記参照)

●自然資料館作成書籍のご案内

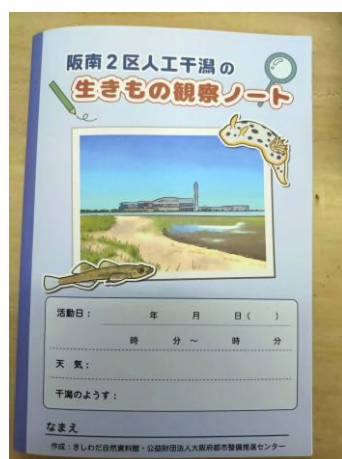
阪南2区人工干潟の

生きもの観察ノート

岸和田市の沖合いの埋立地「阪南2区(ちきりアイランド)」には人工干潟があり、自然資料館主催で毎年自然観察会を行っています。最近、修斉小学校の6年生が環境保全活動に参加しています。

自然資料館では10年以上にわたり、岸和田市沖に位置する阪南2区人工干潟において、生物のモニタリング調査を行ってきました。その成果の一部を広く紹介するため、干潟に見られる生

物を一般向けに解説した観察ノートを作成しました。この冊子は今年4月、市内小中学校に配布しましたが、追加でご希望の方は自然資料館までお問い合わせください。



【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしています。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や地誌に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5
きしわだ自然資料館
TEL:(072)423-8100
FAX:(072)423-8101
Email:sizen@city.kishiwada.lg.jp
自然資料館ホームページ:
<https://www.city.kishiwada.lg.jp/site/shizenshi/>

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。